

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年9月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2871900177		
法人名	医療法人 光邦会		
事業所名	グループホーム銀荘		
所在地	小野市葉多町257-1 (電話) 0794-62-7835		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年7月15日	評価確定日	平成20年9月17日

【情報提供票より】(平成20年5月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年7月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人
職員数	6 人	常勤 5人, 非常勤 1人, 常勤換算	5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(5月19日現在)

利用者人数	5名	男性	0名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	0名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.4歳	最低	66歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	依藤診療所・よこた歯科
---------	-------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園に囲まれ、道路より奥まった所にある、小野市に最初に設立されたグループホームで、母体の老人保健施設に隣接している。ホームは1ユニットで女性5名に限定している。利用者は、家庭的な雰囲気の中でそれぞれが役割を持って、裁縫・音楽等個人の趣味等を活かしながら生活しており、職員もできるだけ利用者に合ったサービスを日常的におくれるように心がけている。今後は、地域の方々にグループホームを理解していただき、交流を図りより良いサービスの質の向上につなげることが望まれる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価を踏まえて、利用者のアセスメントや日々の記録の徹底を行った。その他の改善課題について現在も取り組み中である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価も踏まえて、全職員で自己評価に取り組んだ。課題・記録の整備を行い、職員の協力のもとに計画的に取り組むことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	家族代表は決まっているが、運営推進会議はまだ開催していない。今後は、区長会等に出かけて地域の方々に働きかけ、運営推進会議を開催することが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	月1回、利用料金の支払い時も含めて、家族の訪問時に話し合い、必要事項をノートに記入し対応している。今後は、隣接の老人保健施設の発行する新聞の中にコラムを設けるなど、利用者家族に月1回程度ホームの近況を知らせるなどの体制作りが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	併設の老人保健施設と合同で夏祭り等を行い、地域住民を招いているが、その他の交流には至っていない。近隣の方から野菜等の提供はあるが、ホームの理解や認知を深めることによって、ホームと地域住民との交流が図られることが望まれる。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念や方針はあるが、地域密着型サービスとしての事業所の役割を意識した内容にはなっていない。		地域密着型サービスの事業所として、地域に根ざした活動を展開していけるように、地域密着型サービスの役割を考えながら、理念を検討することが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について、日々の話し合い・ノート等を使用して共有を図っているが、全職員が共有するまでには至っていない。		全職員が理念を共有し、実践が理念にもとづいたものとなるよう、定期的に全職員が話し合う場を確保して取り組むことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り際には近隣の方々を招待し、地域の秋祭りには獅子舞等来てもらっている。また、近隣の住民からは野菜の提供もある。		少しずつ地域の中に溶け込もうと努めているが、今後はホームの行事に来てもらうだけではなく、積極的に地域に出かけ、交流することが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を活かして、利用者と職員の連絡表を作成して共有している。また、家族の日々の悩みなどを聞き取り、職員連絡ノートに記入することにより、職員が課題を共有し、より質の高いサービスの提供ができるように改善を行った。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族代表は決まっているが、運営推進会議はまだ開催できていない。</p>		<p>今後は、地域の区長会等に出かけて地域の方々に働きかけ、サービスの向上のためにも運営推進会議を開催することが望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>グループホームから市担当者に対する声かけは行っているが、グループホームと市担当者との具体的な連携は取れていない。</p>		<p>グループホームから市担当者に対する声かけを行っているが、声かけだけでは連携を図ることは難しいので、実際に運営推進会議を開催し、そこに市担当者の出席を要請するなどの取り組みが望まれる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族から、月1回の利用料金の支払いを受ける時や、家族がホームを訪れた時に利用者の暮らしぶり等を報告している。また、報告内容は職員の連絡ノートにも記入している。</p>		<p>プライバシー保護のためにも、職員の連絡ノートは、利用者毎のノートを作成することが望まれる。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見等を聞くために、苦情ノートを設置しているが、現時点では意見・苦情の記載は無い。そのため、直接出された意見等については、職員ノートに記載し、職員間で共有している。</p>		<p>家族から出される意見は必ずしも苦情ではないので、苦情ノートの名称変更の検討や、匿名で投書できる意見箱の設置等プライバシーに配慮した取り組みが望まれる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動した場合の利用者への影響を考慮し、職員を固定化し、できるだけ異動がないようにしている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者が研修に参加することが多く、他の職員が受講する機会は少ない。</p>		<p>全職員の質の向上のためにも、管理者だけでなく、他の職員にも研修受講の機会を確保することが望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の三木市等で行なわれる研修や交流会にできるだけ参加し、サービスの質の向上に努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者が5人と少なく、ほとんどが併設の老人保健施設からの入居のため、違和感のない移行が行われている。移行前には、職員が老人保健施設に出向き、スムーズに移行できるよう支援している。</p>		<p>併設の老人保健施設からの入居が多いことで比較的スムーズに移行できているが、他の環境からの受け入れを想定した対応マニュアル等の検討も期待される。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者に裁縫等を教えてもらうなど、利用者から学び支えあう関係を築き、共に過ごす時間を大切にしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者が重度化してきていることもあり、直接利用者の思いや意向を把握することは困難となってきたが、利用者のこれまでの生活歴などを考えながら、できるだけ本人本位に対応している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者家族からの意見を聞き取るなどして、利用者の状況に応じた介護計画を作成している。また、より本人本位な介護計画となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、計画を立ててから3ヵ月・6ヵ月単位で見直しを行い、個々の状態にあわせて随時見直しを行っている。利用者の日々の様子等は、すべて同じ日誌に記載されているため、介護計画見直し時に活用することが困難となっている。</p>		<p>現状に即した介護計画を作成するために、個々の利用者の状況が一目で分かるように、各利用者の個別の介護計画に照らしてモニタリングを行うことが望まれる。また、プライバシー保護の観点から介護計画書や各利用者の日々の状況経過等については、個別にファイリングし、管理することが望まれる。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者や家族の要望等を確認できていないこともあるのか、現状では事業所の多機能性を活かして、利用者の要望に応じた外出支援や外泊支援を行っていない。</p>		<p>まずは利用者や家族の要望を把握し、その状況に応じた支援等を期待したい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関がかかりつけ医になり、月1回の往診がある。入居前からのかかりつけ医がいる場合には、家族が往診に連れて行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームでの看取りの経験もあり、家族と話し合いのうえ、家族の思いを考慮に入れて、事業所全体で方針を決めている。</p>		<p>状態変化、通院による病状の確認や看取りに対する介護の説明等を個別の記録に整備し、対応経過を時系列的に確認できる仕組みづくりが望まれる。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>業務日誌等は、鍵のかかる書庫に保管しているが、日誌には全ての利用者に関わることがまとめて記入されているため、プライバシーの確保が徹底されていない。</p>		<p>個々の利用者のプライバシーに配慮するためにも、利用者ごとに日誌を作成するなど、日誌のあり方を検討し、利用者・家族等からの閲覧希望にも対応できるような体制づくりが望まれる。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>少人数のため利用者の意向が反映しやすく、職員も可能なかぎり一人ひとりのペースを大切に、利用者の希望にそえるような体制づくりを行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、職員がバランスを考え、ホームで調理を行っている。準備や片付けは利用者と一緒にやっている。また、併設の老人保健施設の栄養士にメニューに関するアドバイスをもらっている。		いつまでも調理の楽しみを持てるよう、また一人ひとりの力が活かせるよう、利用者と共に利用者の希望による食事づくりを行うことが望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を毎日設け、入浴支援している。車椅子の方は、併設の老人保健施設でシャワーを利用している。 グループホームの浴室としては、段差があり、入りにくい浴室となっている。		建物・設備の構造上の問題はあるが、車椅子利用の方でも安心して入浴ができ、また楽しめるよう、段差解消に向けた取り組みが期待される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫や音楽等、それぞれの利用者にとった支援が行われている。 機能の低下とともに、以前は行っていた散歩も困難となってきている。		個々の機能に合わせて、ホーム周辺を外出するなど生活のリズムや身体機能の維持向上に配慮した支援が望まれる。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設の老人保健施設のガーデンテラス等に行くことがあるが、地理的に奥まった所にあることもあり、外出をすることは少ない。		職員が1人になる時間帯があったり、地理的な問題もあり、外出の機会を確保することは難しい面もあるが、ホームの車を利用するなどできるだけ機会を見つけ、外出支援ができる体制づくりが期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵をかけずに、自由に出入りできるようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練は、年2回併設の介護老人保健施設と消防署の立ちいのもと行っている。職員の非常時の連絡体制もできている。</p>		<p>避難訓練の際に、利用者をどのように誘導するか考え、職員と利用者が一緒に避難訓練を行うなどの取り組みが望まれる。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分摂取量は、毎日記録してその都度支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム全体のスペースは狭いながらも、居室と廊下等のスペースを上手に活用し、一人で過ごせる「場」の確保がなされている。また、季節の植木や、利用者がいつでも座れるように椅子等を配置し、生活観や季節感を取り入れる配慮・工夫をしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の居室には、ひ孫等の写真が飾られるなど、利用者が居心地よく過ごせるような工夫を利用者ごとに行っている。</p>		

 は、重点項目。